

JAPIO YEAR BOOK 2026

発行に寄せて



特許庁長官

河西 康之

一般財団法人日本特許情報機構及び知的財産に関わる皆様において、知的財産の保護及び活用の促進に向けた継続的な活動に感謝申し上げます。

我が国の「潜在成長率」は、主要先進国と比べて低迷していますが、「技術革新力」や「労働効率性」等を表す数値は他国と遜色ありません。圧倒的に足りないのは「国内投資」であり、それを徹底的にてこ入れしていくため、政府は、『日本成長戦略』と『地域未来戦略』を決定しました。

知的財産は、これらを実行していく上での鍵となります。特許庁は、知的財産の保護・活用の促進を図ることで、知的財産を起点に収益を上げ、投資を拡大し、イノベーションを引き起こし、新たな知的財産を起点に収益を上げるという好循環を作り、我が国の「稼ぐ力」を強化する環境を整備してまいります。

知的財産の保護・活用を促進するには事業者に寄り添った特許審査が重要です。まずは、「世界最速・最高品質の特許審査」の継続が基盤と考えており、組織的に AI 活用を進める方針として「JPO AI ビジョン」を策定する等、積極的なデジタル／AI 技術の活用に取り組みます。また、審査官が事業戦略を理解した上で権利取得に係るアドバイスを行う取組や、標準の内容に対応した適切な権利範囲・時期となるように出願人と相談しながら審査する「標準戦略対応審査」も開始しております。

加えて、知的財産を戦略的に取得し活用する企業経営の推進も重要です。知的財産戦略やIPインテリジェンスを経営に積極的に導入することにより、新製品開発・市場開拓・他社との協業・M&A等を推し進め、新たな価値を創造し、「稼ぐ力」を強化している事業者も現れています。特許庁は、知的財産やIPインテリジェンスの経営への活用事例集の発行や経営層との対話等、「知財経営」の普及・浸透に向けて、力を入れて取り組んでまいります。

一般財団法人日本特許情報機構は、知的財産情報の総合サービス機関として、検索、分析、翻訳、データ作成等に関する活動を行うことで、知的財産情報の基盤を構築するとともに、知的財産の活用の促進に長年にわたり貢献しており、事業者への支援や特許庁の審査を含めた取組も支えていただいております。近年は、知的財産情報の分析や翻訳への AI の活用を試行する等、新たな事業に挑戦していると聞いており、今後の活動の更なる発展を期待しております。

知的財産情報は、「知財経営」の普及や知的財産を通じた「稼ぐ力」の強化を行う上で極めて重要な情報です。今後とも、貴機構が、知的財産情報の支え手となり、その普及及び活用に多方面で貢献されるとともに、ますます発展されることを祈念いたします。